

森林・里山づくり研究会が岩国高等学校坂上分校の生徒に森林体験学習を実施

令和6年3月8日(金)に山口県東部森林組合錦川交流センターにおいて、1年生15名を対象とした森林体験学習が実施されました。

これは、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さや林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために、林業研究グループ「森林・里山づくり研究会」（会長:木村琢寛）が行ったものです。

はじめに、会員から森林の働き、林産物の活用、森林の仕事について話がありました。

その後、岩国地域から生産されたスギやヒノキの間伐材でつくられた木製プランター作りを行いました。1班3名に分かれ、電動ドリルで材料の板に釘を打ちこみ組み立てます。生徒たちは、慣れない作業に悪戦苦闘していましたが、最後にはコツをつかみ上手に作業をすることができました。最後にバーナーで木製プランターを焼いて焼杉の様な外観にして完成です。

その後、原木しいたけの栽培方法について説明を受け、原木に電動ドリルで穴をあけ、木槌で椎茸菌（種駒）を打ち込みました。電動ドリルの使い方も慣れた様子であったという間に作業は終了しました。完成した原木は学校に持ち帰り2年後の収穫を楽しみに育てます。

生徒たちは、「最初は電動ドリルが難しかったが、班員と協力して完成させることができた。楽しかった。」と話しており、森の恵みに親しみながら楽しく森林体験学習を終えました。



電動ドリルでの木製プランター作り



シイタケ駒打ち